

「一株株主」に頭痛める

チツソ 総会に大ホール準備

九月期の株主総会シーブンを控え、公害企業的首脳は「一株株主」の対策に頭を痛めている。水俣病で四十六人の犠牲者を出したチツソ（本社東京、江頭豊社長）

は二十八日午前十一時から、約千五百人収容出来る大阪市の厚生年金会館中ホールで株主総会を開くことになっている。同社がこのよ

うな大きなホールを総会にあてることにしたのは、九月期の株主名簿書き換えが、三月期に比べ六千人もふえ、五万一千人に激増したことが原因。

会社側ではこの六千人のうち「一株株主」は、少なくとも千五百人ぐらいいるものとみて、従来は百人程度の小さなホールを使っていたのを同ホールに変更した。この一株株主は「東京・水俣病

を告発する会」が主体だと、会社側はみている。同会は会社側に①水俣病患者の補償をせよ②会社側は水俣から一方的に工場を撤退するのではないか—などの抗議を出している。

これについて入江専務は「患者、遺族の補償は三十四年から三十五年にかけて県知事を中心とした調停委員会で漁業補償も含め完了した。その後、厚生省の指導もあり、水俣病処理委員会を設け、四十五年五月に追加補償をした。したがって補償はすべて片づいており、いままでに二億八千万円を支出した。また会社側としては水俣工場で石油化学法による塩化ビニールの原料を生産する方針で、水俣から撤退する考えはない」と撤退説を全面的に否定してい

る。
株主総会についても同専務は「一株株主でも株主として出席した場合、質問には納得のいくまで何時間でも会社側の立場を説明

する。総会中に会場を占拠、議事の進行が出来ないなど最悪の事態にならない以上、警官の導入は全く考えていない」といいながらも、当日の総会が心配のようだ。